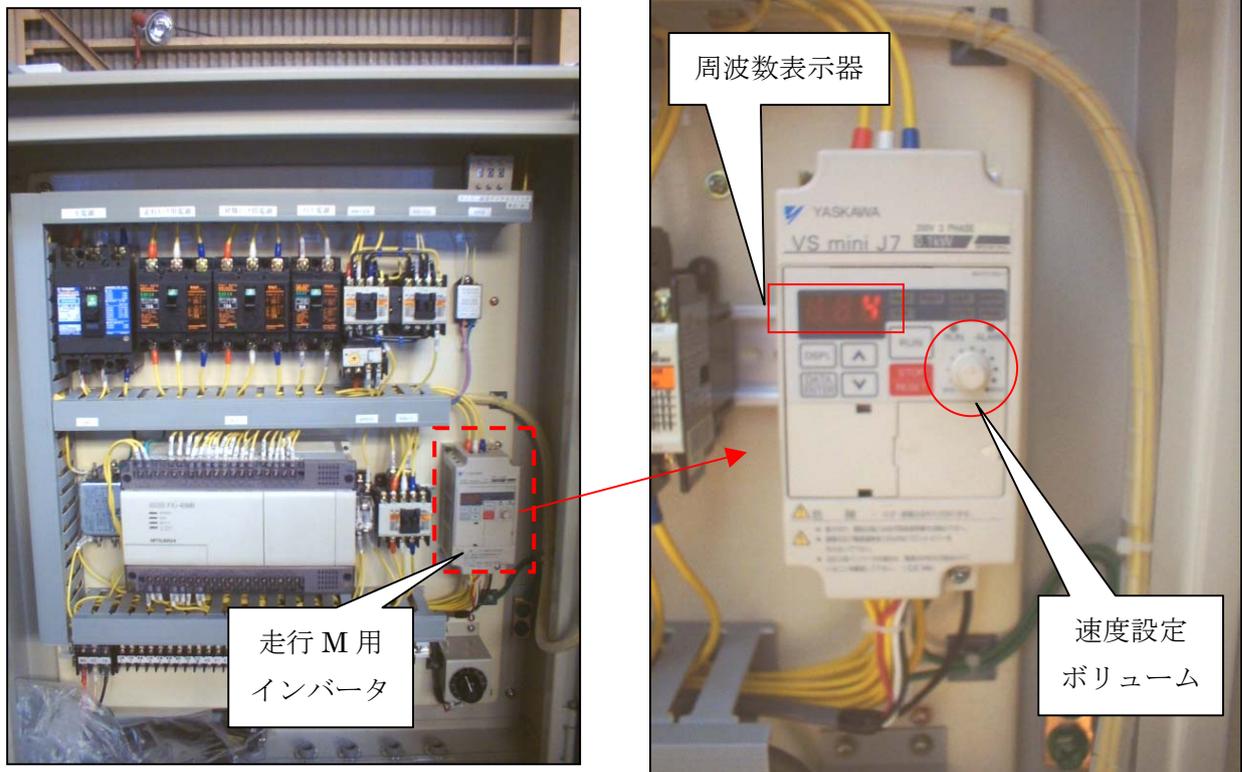


速度調整

汚濁物質の状態により、掻き取り速度を調整することが出来ます。

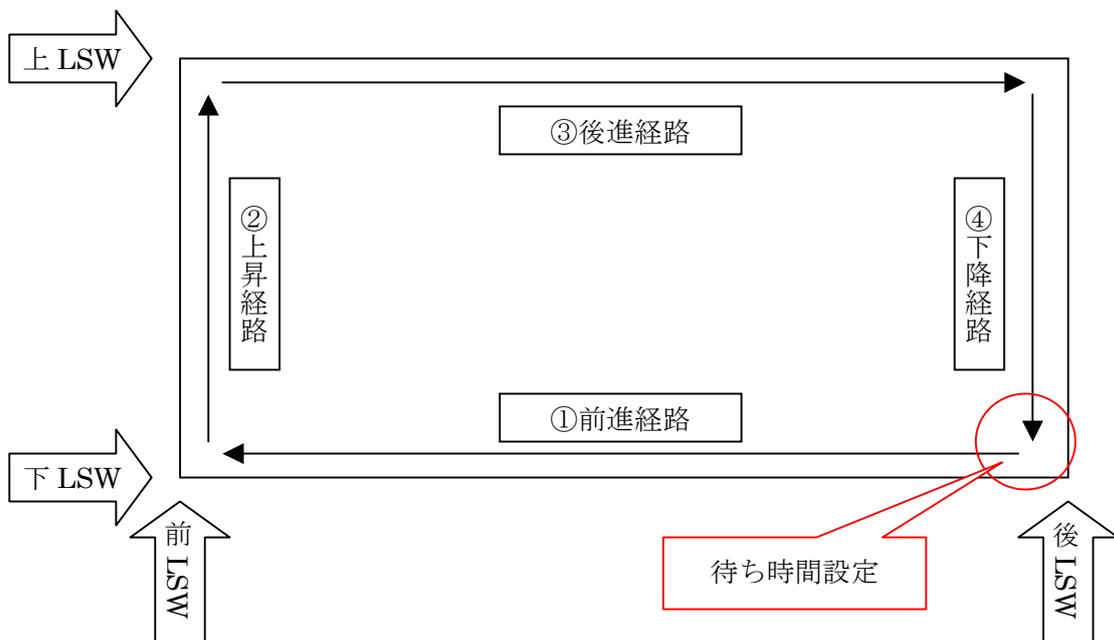
調整は走行モータ用のインバータにより周波数変更で可変速が可能です。

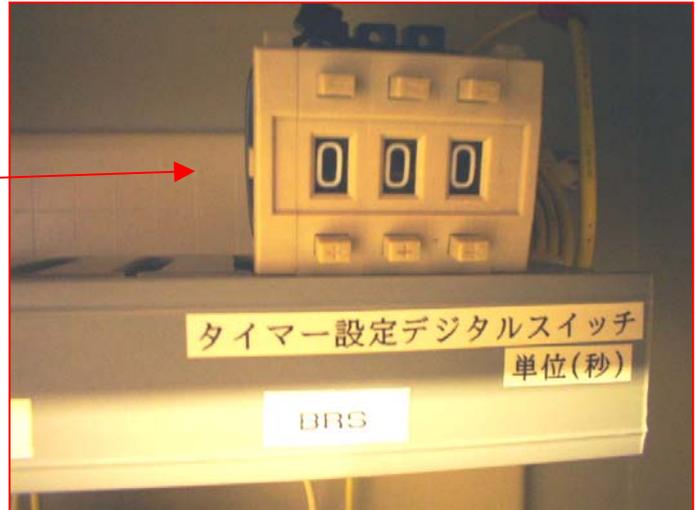
インバータの周波数設定は、Min30Hz～Max120Hz の範囲で調整が可能です。



サイクル待ち時間設定

自動運転の 1 サイクルは上記の通り①～④の工程ですが、次のサイクルまでに待ち時間を設けたい場合は、待ち時間設定を行うことが出来ます。





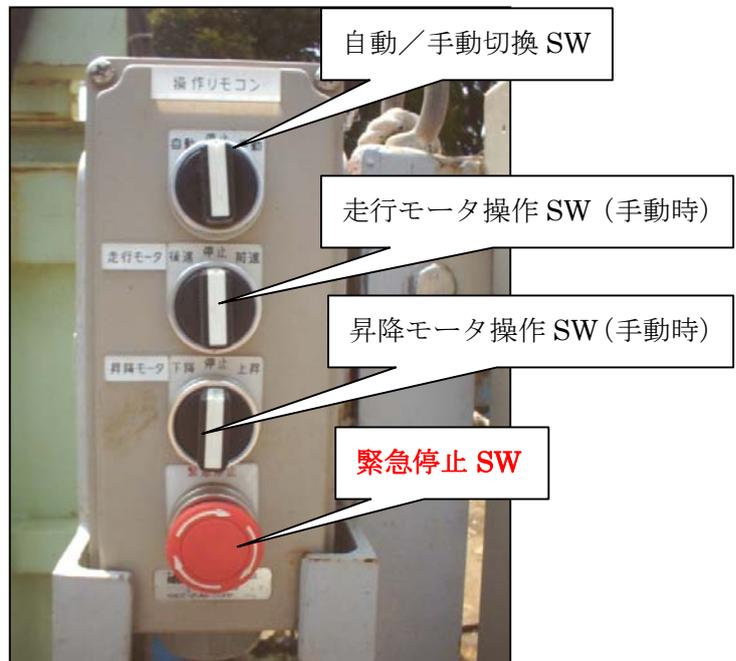
タイマー設定 (待ち時間設定) デジタル SW
 待ち時間をデジタル SW で設定します。
 単位は秒で 1 ~ 999 秒まで設定可能です。

手動運転

自動搔き取り機を任意の位置に移動させたい場合は手動運転で行って下さい。

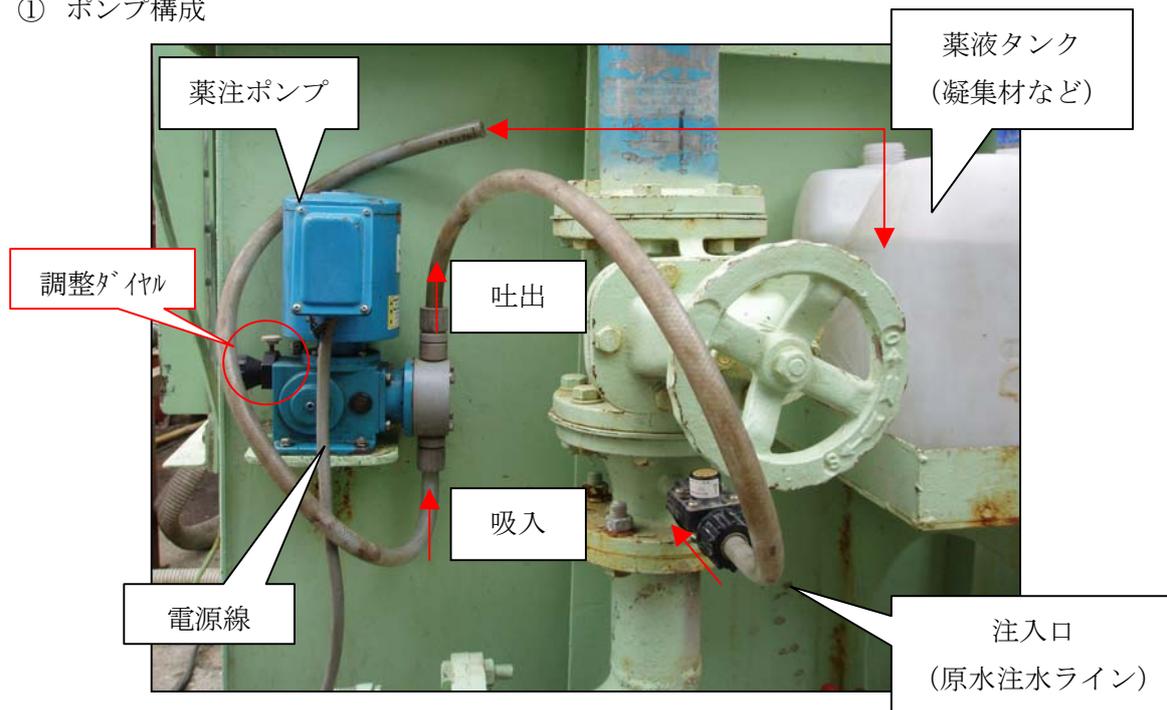
切換え SW を“手動“に切換え、走行 M を操作する場合は前進・後進、昇降 M を操作する場合は上昇・下降到に切換え移動させて下さい。

なお、走行 M の停止条件は、前後リミット、昇降 M は上限・下限リミット動作時に停止となります。



薬注ポンプの取り扱い方法

① ポンプ構成



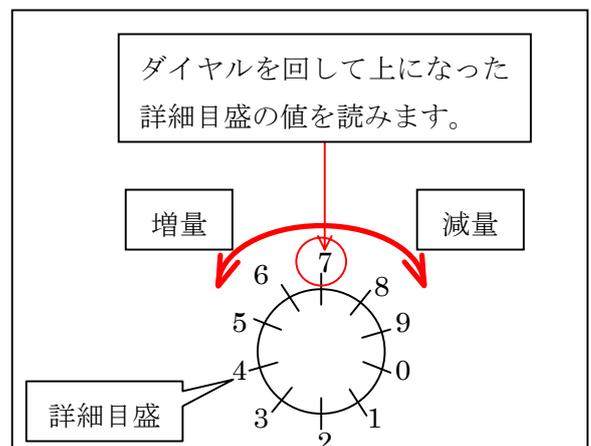
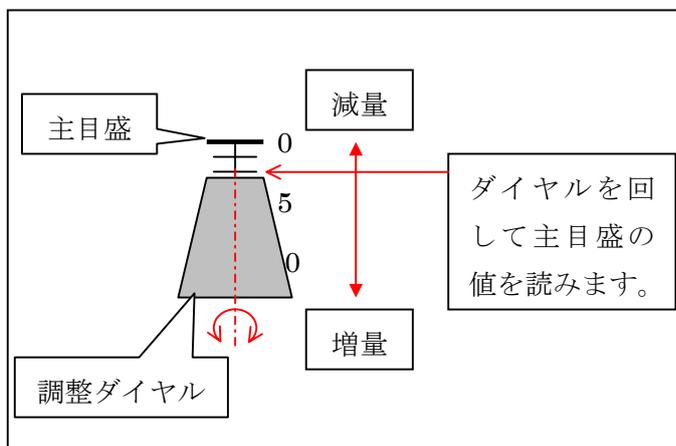
② 薬注ポンプの調整

薬注ポンプの流量の調整は、側面のダイヤルにて行います。



調整ダイヤルを回して、流量の調整を行ってください。

(例) 主目盛= 2、詳細目盛= 7 の場合、読み値=2.7 となります。



維持管理

凝集材の補充

凝集材は薬液タンクに補充します。

液漏れのないように、補充用の容器に移すか、漏斗を使用して補充を行ってください。



なお、薬注ポンプに液不足によりエアが混入した場合は、写真のように呼び水をホースに注入してから、薬液タンクにホースを差込み、エア抜きして運転を行ってください。

(注意事項)



薬液の無い状態で、薬注ポンプを長時間空回り運転すると、モータ温度の上昇、ダイヤフラムの故障に繋がりますので、ご注意ください。



フロックの回収

フロック（汚濁物質）の回収は、排出口に網籠などの容器に回収袋（麻袋など）に回収して下さい。



図 0-1.フロック回収状況

注意事項

ホース類の取り付け

本装置で使用するポンプ類のサクシオンホースなどの取り付けは、脱落のないように、専用金具で賢固に固定して下さい。



電源の接地

発電機、主分電盤、自動掻き取り機制御盤など、電力を使用する箇所には必ずアース線を接地して下さい。



電源の投入

主分電盤のメインブレーカーに漏電遮断機 (ELB) を使用しています。
機器の焼損を防止する為、電源の投入は必ず ELB から投入して下さい。
もし、ELB が動作する場合は、いずれかの機器の絶縁低下が予想されます。
各々のブレーカを個別に投入して原因になっている機器の特定、交換をお願いします。



水槽の設置

水槽の設置場所は水平且つ強固な地盤上に設置して下さい。
本水槽は、水質浄化状況を把握する為に、アクリル板を4面使用しており、歪みなどによる破損・漏水事故の原因になります。
アクリルが破損すると 8m³ の水量が一気に放出し、周囲環境にも影響する恐れがありますので十分注意して下さい。
また、本水槽は汚濁水質を対象にしており、比重の重い原水は考慮していません。
比重が大きい場合にもアクリルに影響を及ぼす恐れがありますので、比重の重い泥水などには絶対に使用しないで下さい。



自動掻き取り機との接触

本装置は汚濁物質の排出に自動掻き取り機を使用していますが、走行の駆動にラック&ピニオンを使用しており、水槽上部にラックを敷設、機械が走行しますので、ラックに挟まれないように十分注意して下さい。

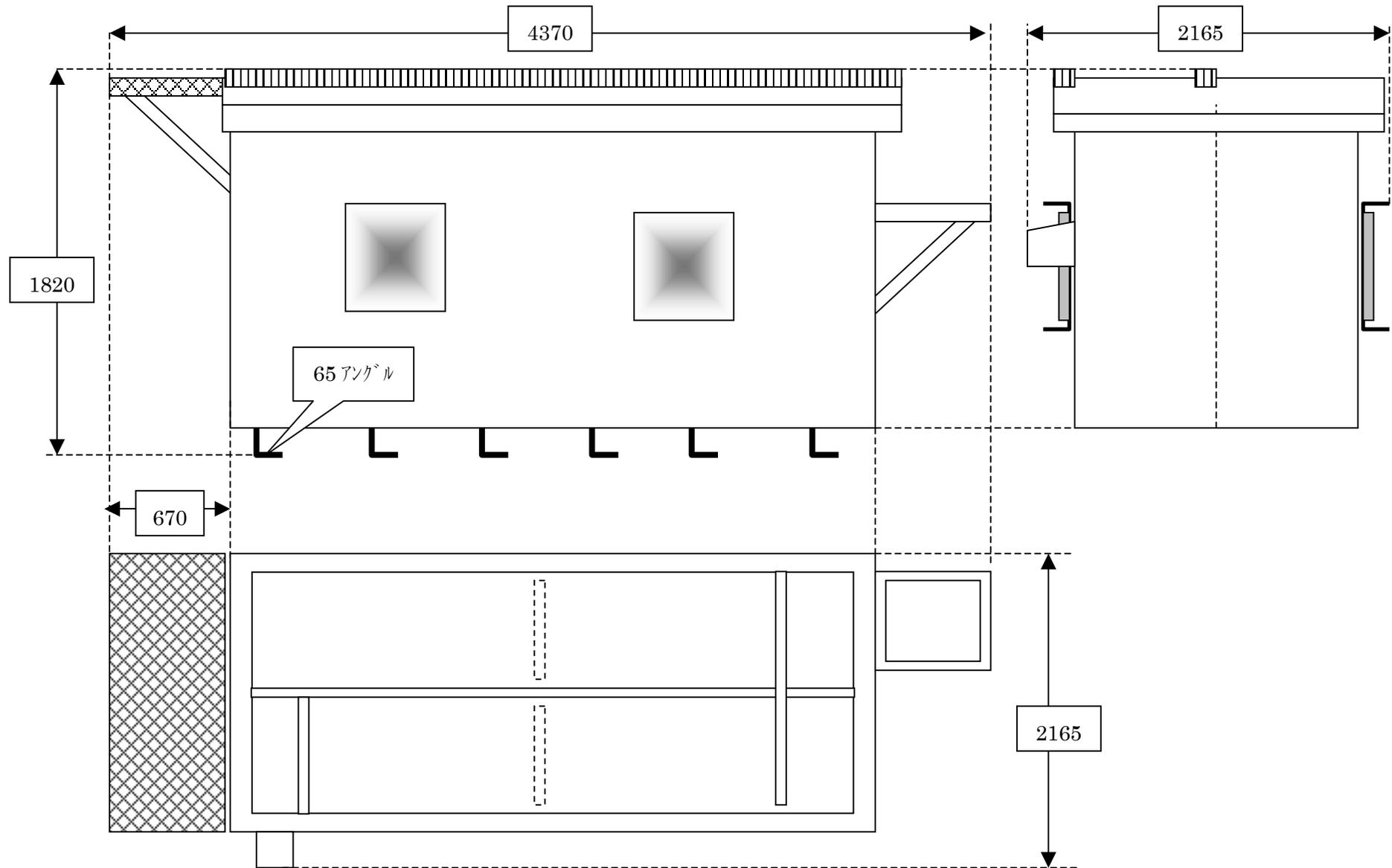
運転の監視

本装置は基本的に自動運転が可能ですが、ポンプ類とモーター類の定期的な点検・監視などの管理をお願いします。
特に機器類の温度・振動には注意を払って下さい。



運送について

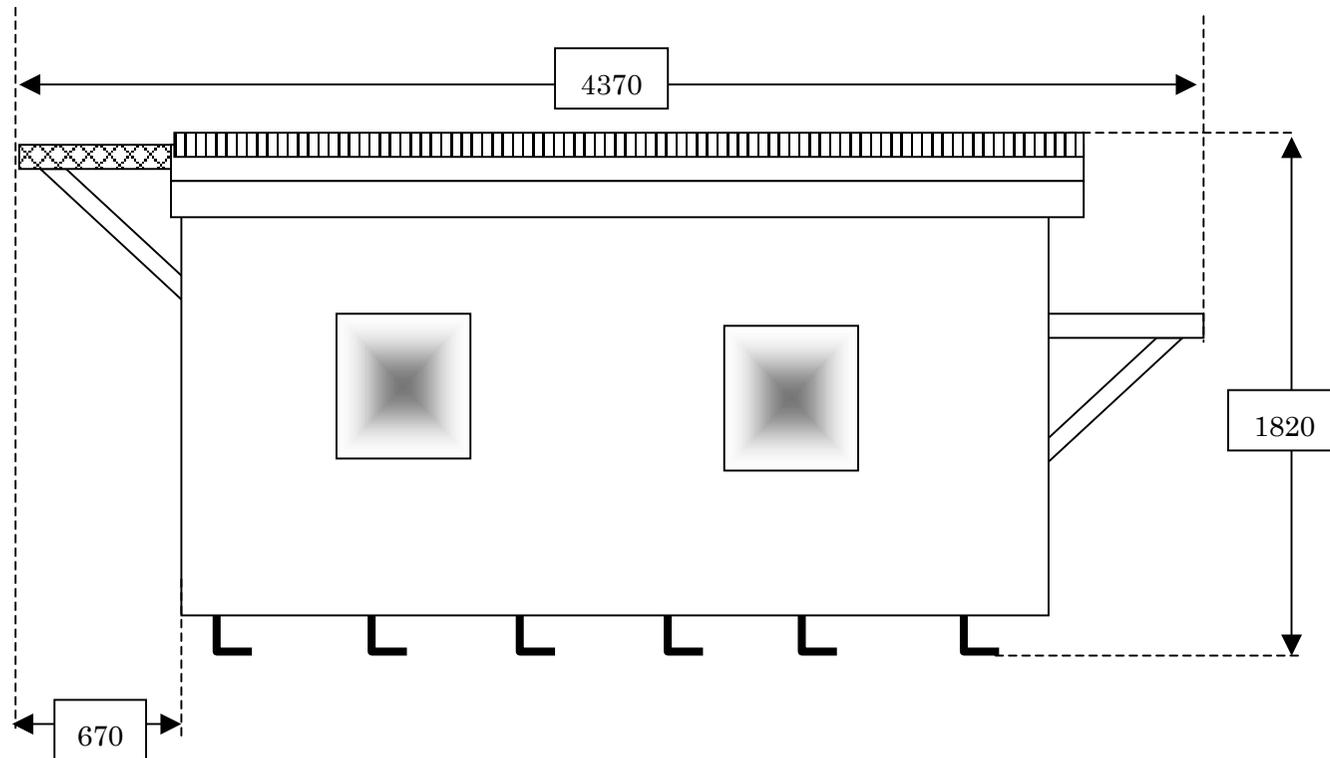
水槽寸法図



水槽荷姿

制御盤、自動掻き取り機など水槽備品は全て水槽内に入れることができます。全体重量は3tです。

積み込みは、クレーン・フォークリフトなどで積み込みできますので、現地での積み下ろし重機の手配が必要です。



@お問い合わせ先

(株)トマック
担当部所；機械部
住所；千葉県 袖ヶ浦市 南袖3 2
TEL；0438-63-9588
FAX；0438-60-8485

